



114
A2910



崇厚魯清條約
議定

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

1073

崇厚魯清條約
 一、 崇厚魯清條約ノ要領
 二、 崇厚魯清條約ノ別紙覺書
 三、 崇厚魯清條約ノ載セタル
 四、 崇厚魯清條約ノ訓狀ニシテ崇厚魯清條約ノ
 五、 崇厚魯清條約ノ者ナリ
 六、 崇厚魯清條約ノ追テ細詳スバシ
 七、 崇厚魯清條約ノ非使ヲ示摘セシ者ナリ
 八、 崇厚魯清條約ノ各魯國人ノ銃器ヲ携フルノ權利ニ関スル條件ハ余
 九、 崇厚魯清條約ノ華ニ贈ラレタル本書草稿中ニ脱落セシ如クナレド
 十、 崇厚魯清條約ノ余輩之ヲ補フニ由シナカリキ

第一條 魯國ハ伊犁ヲ還與スルヲ諾ス

第二條 沂國ハ伊犁ノ住民ニ赦典ヲ行フヲ諾ス

第三條 魯國ニ移住スル伊犁ノ人民ハ魯國人ト同等ノ權利ヲ有シ同一ノ處分ヲ受クベシ

第四條 從前伊犁ニ於テ魯國人ノ有スル財産ハ今後尚ホ其者ノ所有ニ屬スベシ



第五條 伊犁引渡シニ付テ、談判ハ清國ノ代理人トシテ勅命ヲ以テ任セラルタル左宗棠及ヒ其他ノ人ト又魯國ノ代理人トシテ特ニ委任セラレタル中將コーフマントノ間ニ執行スベシ

第六條 伊犁還與ニ付清國ハ五百万ルーブルノ金額ヲ魯國拂フヲ約ス其拂方ハ本條約書交換ノ日ヨリ始メ滿壹ヶ年ノ中ニ皆済スヘシ

第七條 伊犁ヲ還與スル上ハエコシ河ノ西リ山ノ南ニ於テテケス河ニ至ルマデノ土地ヲ魯國ニ割與スベシ

第八條 ターケエン(タシケン)ト敷ノ境界ハ改正スベキヲ約ス

第九條 特別委員ニ於テ境界ヲ制定セシ上ハ邊戍屯營ヲ設クベシ

第十條 嚮キニカシガル及ビウルグニ於テ完結セシ條約ニ從ヒ設置セシ領事館ノ外又新タニキヤ、^嘉、^一、^ユ、^ク、^ハ、^ン、^ウ、^コ、^ハ、^ミ、^ト、^ル、^フ、^ハ、^ン、^ウ、^ル、^ムチ及ヒクケエニ領事館ヲ置クベシ

第十一條 官務取扱上ニ於テ領事ト地方官トノ相互ノ通信ハ必ス書簡ヲ以テスベシ且習慣ニ因リ領事ハ容今ノ取扱ヒヲ受クベシ

第十二條 モンゴリア及ヒテエンシヤンナルケエンシヤンヤルノ諸州ニ在ル魯國商人ハ其商品ノ税ヲ拂ハサルベシ

第十三條 凡テ領事館設置ノ地夫ニカリガンニハ商用

本
女

ノ倉庫ヲ設クベシ

第十四條

魯國商人ハトシヤウ、シア^{西安}フ及ビハンケ
エンヲ經テハルガン^嘉ヤ^一、ユ^一、ク^一、ハ^一、ン^一、天^一、津^一
ハシコ^一ノ間ニ其貨物ヲ運搬スルヲ得バシ
又魯國ニ向テ其土產ヲ運送スルハモ同シ途
ニ據ルバシ

第十五條

此條約ハ皇帝ノ批准ヲ得テヨリ五ヶ年以内
ニ之ヲ改正シ若クハ變更スルヲ得サルモノト
ス

第十六條

下等ノ茶ニ特稅ヲ課スル事ニ付魯國商人ノ
請願一件ハ追テ總理衙門ニ於テ處分スバシ

第十七條

從前ノ條約ニ定メタル如ク地方官ハ境界ヲ越
ヘテ遁逸スル家畜ヲ搜索スルニ力ヲ盡スバ

第十八條

シト雖モ其損失ヲ償フ^一、ナ^一、カ^一、ル^一、バ^一、シ
此條約ヲ完結シ國璽ヲ鈐ヤシ後一ヶ年ニ本
書ノ批准ヲ魯京ニ於テ交換スバシ

